

平時の医療への移行には行政との連携が重要

新潟県医療救護班 新潟県立吉田病院

松山 弘紀

5月8日～10日

5月8日

5:55 新潟県庁前を出発。県医師会チームは、永井明彦先生以下、4名で同行。

7:45 東北道に入ると、未だにかなり路面の凹凸が多くなった印象。

8:55 菅生PAにて休憩、その後、仙台市へ入る。

9:12 三陸道へ入ると道路状況はさらに悪化。自衛隊車両が半数。他には、兵庫県警の車両が数十台連なって移動している。

9:23 やや渋滞が始まり、車の流れが悪くなる。

9:50 石巻市へ入る。

9:51 高速道路を降りて一般道へ出る。インターチェンジを出ても周囲は、新潟と何ら変わることのない風景であり、所々に震災後の休業を告知している店舗を見かける以外は平静な街並。

10:00 石巻赤十字病院到着後、すぐに日本赤十字の担当医師よりブリーフィングを受ける。まずは、救護班自身の身の安全を十分に確保することを強く要請される。震災2ヶ月経つ未だに余震、津波への警戒を十分に行う重要性を改めて肝に命じることとなる。今回の救護班の活動内容で、これ以前と比べて最も異なる点は、慢性期医療への移行。震災直後の救命を主眼とした超急性期以降、現時点までは、住民の健康維持をはかる急性期の段階であったが、5月9日より、石巻市内の学校や、調剤薬局の営業再開が決定。また、市内の医院等も多くが診療を再開していることもあり、地元の医療への移行を主眼におく慢性期への転換を行っていく方針となった旨を示される。具体的には、各救護所での医療、処方量を減らし、地域のかかりつけ医への受診を積極的に勧めていき、救護所の役割をフェードアウトする流れを作っていくという方針のターニングポイントである。

11:30 昼食 病院の職員食堂にて、私と金子さんは、縁起をかついで(?)、トンカツ定食 620円。星野さんは、A ランチ 400円。県医師会チームより、宿泊可能施設が増えているとの情報を得たため、早速いくつかの宿泊施設に電話にて確認したところ、エリア4内に宿泊先を確保できた。

12:15 前任の長岡中央総合病院の外科西村先生たちのチームと引き継ぎを行う。西村先生チームも前述の方針転換については知らされていなかったとのこと。(一昨日の会議での決定事項であった)また、新潟県救護班が兵庫県チームとともに担当するエリア4においては、新潟県チーム1(災害拠点病院等)は、それまでの門脇中救護所を新潟県チーム2(JMAT、県医師会)に移管し、石巻市立女子高および住吉小学校の巡回救護所担当となっているとの報告を受けた。それらの救護所では、避難所の人数は減少したものの、残っている方は高齢者や行き先の決まっていない人がほとんどであり、依然として、救護所の医療を必要とするとの情報も受け、今回、方針が転換されたとはいえ、未だに公共交通機関が復旧していないエリア4では、今しばらく救護所のニーズは残ることが予想された。

13:00 長岡中央総合病院チームの温かい見送りを受けながら、石巻赤十字病院出発。

13:20 石巻中のエリア幹事の兵庫県チームに挨拶と情報収集。ここでも、各自の安全の確保を十分に行うことを再度確認される。

13:40 石巻市立女子校到着。救護所の備品の場所、在庫の確認ならびに動線を確認する。

14:00 診療開始。石巻市立女子高の避難民は、55名。この巡回での総受診数は4名。咳、急性上気道炎2名、頭部擦過傷1名、めまい、高血圧(ストレス?)1名であった。地震、津波からの避難の様子を克明に、しかし淡々と教えてくれる患者

さんの様子に、かえって被災時の緊迫した壮絶な様を感じた。

16:00 撤収。校舎の入り口では炊き出しが行われていた。聞けば、四国丸亀からのボランティアの方々。おばさんと丸亀のうどん談義をしてその場を後にする。

16:10 石巻中にてアセスメントシートをエリア幹事に提出。女子高は高台であり、環境面の問題は特になし。

16:20 日和山公園より石巻沿岸地区を俯瞰する。テレビ等にて報道されている津波被害による残骸の状況は、ほとんど変わっておらず、復旧の進んだ地区と進んでいない地区の格差が極端に大きいことを実感する。

17:30 石巻赤十字病院到着。

18:00 エリア幹事ミーティングに出席。各避難所の要介護者に移動拒否者が多く、避難所、救護所閉鎖には十分な説明とある程度の時間がかかることが予想されるとの見解が示された。

18:40 石巻赤十字病院をあとにし、

19:00 本日の宿泊先であるビジネスホテルC & A到着。

19:30 近くの居酒屋で夕食。聞くと本日再開したとのこと。座席スペースの座面から80cmくらいのところまで浸水したとのこと。しかし、一歩一歩前進して行きたいとの言葉に心から応援したい気持ちになる。

21:30 ホテル帰着。

22:30 就寝。

行き場のない患者対策が必要

5月9日

5:30 起床。

7:30 ホテルにて朝食。

8:10 ホテル出発。

8:25 石巻中でのエリアミーティングの予定であったが、兵庫県チームが渋滞で遅れたために中止。

9:00 住吉小にて診療開始。

11:00 診療終了 診察は頭痛の1名のみ。

11:15 海岸付近の見学。石巻市立病院の敷地に立つ。現在は診療を行っていないが、2階以上は、今にも診療再開可能に思える程きれいにみえる。

(津波は4Fまで上がったらしいが)この場所の復旧には、まだまだ時間がかかるのだろう。

12:00 石巻市立女子校到着。昼食はカップ麺と缶詰などですませる。

14:00 診療開始。

16:00 診療終了 1名のみ受診、高血圧にて投薬。近くの診療所を紹介するも、落ち着き先が決まっていない現状では、あまり気が進まない様子。根気強い説明と時間が必要か。帰りに昨日も玄関で豚汁を焚き出していた丸亀のボランティアの方々とお話しし、帰路へ。

17:10 石巻赤十字病院到着。明日往診するグループホームでの診療に必要な備品を受け取り宿泊先へ。

17:20 途中、コンビニに寄って買い物

17:50 ホテルに到着。

18:00 近くの中華料理店で食事。こちらも再開直後。皆で特製担々麺を頂く。

19:30 ホテルへ。

5月10日

5:00 起床。

6:00 近くの神社、被災地を廻る。石森漫画館のある中州、対岸の状況は凄絶としかいいようがない。子供の靴、教科書など、生活の痕跡が至る所に散乱している。ただただ、そこにいた人たちの無事を祈るのみであった。

7:30 ホテルで朝食。朝食の支度がまだできないため、おにぎりを頂く。(残念ながら、賞味期限切れであった。)

8:15 出発。

8:30 石巻中にてエリアミーティング。

9:00 住吉小にて診療開始。

10:30 診療終了 受診数は高血圧1名のみ。

10:40 移動してグループホームにて診療。ASOによる足背などの潰瘍の女性、咳の女性の2名。

11:30 診療終了し、石巻赤十字病院への帰途につく。

12:00 赤十字病院到着。最後の救護日誌を提出し、昼食。職員食堂にて上越総合病院チームとお会いする。昼食(Aランチ400円)のあとに引き継ぎを行ない、13:30に車を引き渡し、次グループを見送る。新潟市医師会チームは引き継ぎが遅れたために14:00に合流して、石巻を後にする。

- 15:30 菅生 PA にて休憩。
- 16:50 磐梯山 SA にて休憩。
- 18:20 新潟県庁到着し、荷物を積み込み解散。

まとめに

先述したように、5月9日の学校の再開、多くの調剤薬局や医院の診療状況の改善を境に、受診数は大きく減少していくと思われます。今後、避難所や救護所の統合、さらにはエリア統合が進んでいき救護所の役割を終えていく流れになること

は間違いありません。しかしながら、エリア4は被災程度が大きく、かつ現在でも復旧が進んでいない地区です。そのため、数は減っていても、高齢者を中心として依然として救護所を必要とする避難者が存在することも厳然とした事実としてあります。これらの方々の生活環境を安定させ、どのようにして平時の医療に移行していくかは、医療者のみならず、行政との綿密な連携が重要になると思われました。